

# みなみん

学校標語 「笑顔かがやき 優しさいっぱい」

令和5年11月2日  
練馬区立南田中小学校  
みなみん学級だより  
NO.25



保護者の皆様からの感想を読ませていただくと、家に帰って宿泊でのことをたくさん話した子供も多かったようで、子供たちは本当に宿泊が楽しかったのだな、ということがよく分かりました。また帰宅後に自分で荷物整理を行う子供も多く、宿泊学習を通して身辺自立の面においても成長を実感しました。

以下に、3日間の子供たちの様子をお伝えいたします。

## ☆1日目：碓氷湖ハイキング・鉄道文化村☆

「行ってきますの会」では、校長先生から、「自分でできることは自分でやる。」「友達と仲良く協力する。」「自然に親しむ。」という3つのめあての話がありました。事前の学習でも各自のめあてを決めているので、めあてが達成できるようにがんばろう、という気持ちを高めて出発することができました。

バスの中では、さっそく、がんばることや楽しみにしていることの発表をしました。その後、歌を歌うなどして、楽しくすごしました。

交通状況もスムーズで、予定通り目的地に着いたので、車窓からでしたが「めがね橋」の見学をしました。とても大きな橋に、「すご〜い。大きい!」という声もたくさんあがっていました。碓氷湖畔に降り立つと少し空気が冷たかったので、ジャンパーを着て行動することにしました。しかし、歩いて日向に出ると暖かさを感じるほどで、思ったよりも寒くはなく、快適に過ごすことができました。いよいよ、楽しみにしていたトロッコ列車「シェルパ君」に乗車です。車内の様子を見て、「昭和みたいにレトロだ。」とか、ゆっくり走っていることで、「楽しい時間が長く続いている。」と言って子供たちは喜んでいました。



鉄道文化村では、楽しみにしていたミニ SL 乗車はもちろんのこと、展示されている車両の見学でも、運転席に座って車掌気分になって楽しんでいる子供たちが多かったです。



夜は、本当に久しぶりのキャンプファイヤー。みなみん学級は火の神様から「元気の火」をもらいました。「アブラハムの子」や「猛獣狩りに行こう!」などの踊りやゲームをやって、4校の子供たちと交流をしました。寒かったけど、盛り上がり体は温まりました。

## ☆2日目：三方が峰・見晴岳ハイキング・佐久市こども未来館☆

朝の会をベルデの中庭で行いました。空気の冷たさに身も引き締まり、さらに体操や踊りで体を動かすことで、眠気も一気に吹っ飛び、「一日が始まったぞ！」という気持ちになりました。ハイキングで栄養のバランスを考えながら食事を選び、一日の活力の源となる朝食を、みんなしっかり食べました。



そして、池の平のハイキング・山登りに出発！

やはり池の平でも思ったほど寒くはなく、歩いて体を動かすと空気が気持ち良く感じられる、快適な気候でした。予定していた木道が工事中だったので、迂回するルートを通って三方が峰を目指しました。途中、小諸の街や遠くの山々、そして富士山も見ることができ、子供たちは大きな声で「ヤッホー！」と言いながら元気に歩きました。三方が峰まで来ると、さらに遠くには山頂に雪をたたえた北アルプスやその下に広がる雲海が見え、子供たちは「わあ～、きれい。」「すごい！」「街が小さい！」と感動の声をあげていました。

ここからは、さらに上の見晴岳を目指して尾根を歩いて下山するグループと、迂回をして元来た道に下りて、そこから出発点まで戻るグループに分かれました。

<見晴岳グループ>

アップダウンのある道を歩いて見晴岳を目指しました。少し距離が長かったので、日和田山では、「頑張れー！」と励ましの声をかけていた5年生の子供たちも、今回は口数が少なくなり、黙々と歩いている姿が見られました。その一方で、3年生は恐竜の話などをしながら元気に歩いていました。頂上に着いて振り返ってみると、「わ～、さっきよりも高い！」と言ってみんな喜んでいました。でも、「すごい、高いね。落ちたら怖いね。」などの声も聞かれ、普段感じられない高さを体で感じているようでした。景色を眺めながらお茶を飲んで休憩をしたあと、下山しました。



<三方が峰から戻るグループ>

三方が峰から少しアップダウンのある道を歩いて木道まで下り、そこから始めに歩いた道を通して出発点まで戻りました。実は、始めに歩いた道もアップダウンのある道だったので、そんなに簡単に歩ける道ではありませんでした。しかし、ゆっくりのペースで一步一步、確実に歩いたので、「疲れた。」とか「もう、歩きたくない。」などという言葉は一切聞かれず、最後まで歩き切ることができました。池の平の大きな自然を体で感じることでできたハイキング・山歩きでした。

<こども未来館>

頑張って歩いたあとは、楽しみにしていた「こども未来館」です。プラネタリウムを見てから班行動で、展示物を見たり体験をしたりしました。月面での無重力体験や宇宙から早く地上に降りるための「出勤スライダー」が大人気でした。館内の中央に展示されている大きなブラキオサウルスにも圧倒されていました。子供たちは次から次へと、地球誕生の頃から宇宙開発の時代までを楽しみました。



## ☆3日目：湯川ふるさと公園・群馬県立自然史博物館☆

前日の夜にはお土産を買いました。家族一人一人のことを考えながら、そしてお金の計算をしながらの買い物でした。帰る日は、自分たちが使った部屋の掃除と自分の荷物整理をして、閉校式を行いベルデ軽井沢をあとにしました。

はじめに、「湯川ふるさと公園」で、遊具やボールを使って思いっきり体を動かしました。久しぶりの友達と体を動かす活動に、子供たちは笑顔で大はしゃぎでした。公園の周りは黄色く色づいた紅葉に囲まれ、空気もちょうどよい冷たさで、自然の中で体を動かすには最適な環境でした。

次に、バスに乗って、「群馬県自然史博物館」に向かいました。

恐竜を楽しみにしていた子供たちも多く、博物館に入る時にはニコニコしたりわくわくしたりして、ようやくここにたどり着いた！という感じを受けました。

館内は班ごとに見学しました。恐竜に詳しい恐竜博士もいて、恐竜の骨を見ただけで恐竜の名前や時代が分かり、班の友達に説明をしていました。また、さわってもよい岩石や剥製もあり、子供たちは積極的に触って感触を楽しんでいました。



弁当は広い原っぱで食べ、近くにあったとても長い滑り台を1回滑ってから、帰路に着きました。

帰りの車中では、宿泊学習で頑張ったこと、楽しかったことの発表をしました。食事係や保健係、班長、それから自分のためためあてができた、など、自分の係やめあてを意識して過ごしていたことを、子供たちの感想の中から知ることができました。楽しかったことは、鉄道文化村や自然史博物館など見学したことや、キャンプファイヤー、友達と過ごしたことなど、実際に体を動かして活動したことが多かったようです。いずれにしても、子供たちの心の中には、宿泊学習の中で頑張ったことへの成就感や達成感、そして友達と過ごしてできたたくさんの思い出が心の中に広がり、本当に中身の濃い、3日間を過ごすことができました。

「行ってきますの会」で校長先生からお話があった3つのめあては、「自分のことは自分で行うようにしました。」「友達と協力して過ごすことができました。」「軽井沢の大自然の中で、自然を体でたくさん感じることができました。」というように、3つとも達成できたと思います。また、帰校後、校長先生からは、「みなみん学級の子供たちは友達に優しい言葉かけをして、みんなで協力して過ごすことができ、大成功でした！」というお話をいただくことができました。